

本校の目指す教育	国家社会の進展に寄与できる実践力に富んだ有徳な人物の育成を目指して、おおらかな徳操、高い知性、健全なる身体、勤労の精神、実行の勇気を涵養し鍛錬する。
本年度の重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 充実した授業を通して、確かな学力の伸長を図る。</li> <li>2 生徒の特性を生かす指導に努め、進路実現に意欲的に取り組む意欲を育てる。</li> <li>3 基本的な生活習慣を身につけた礼儀正しさ、自主的な生活態度を育てる。</li> <li>4 生徒会活動や部活動を奨励し、他者との協働を積極的に推進する。</li> </ol>

自己評価							学校関係者評価
年度当初の状況				年度末の最終評価（3月）			実施日：令和2年7月27日
番号	評価項目	現状・課題	具体的な方策	評価指標	経過・達成状況等	達成度	今後の課題と改善策
1	授業	旧来型の授業から脱却し、アクティブラーニングも含めた新たな授業形態を習得し、より授業の質を高めていく。	教員一人ひとりの授業力をより細かく分析するため、質の高い授業アンケートを利用し、授業力の向上を図る。  授業互見期間を設け、他の教師の授業スキルを学ぶ。	授業アンケートの結果と、その結果をどのように授業改善に活かしたか。  授業見学シートの提出状況。	授業アンケートの満足度の平均が5段階で4.3以上となり、また70%以上の教員が4.0を超えるなど個々のレベルアップが図られた。  授業見学シートの提出状況は3割程度。	B	教員個々の授業評価が高まっていることはよいが、さらに授業スキルを向上させるには、教員全体を対象とした研修や日常的な授業参観などを積極的に推進していく必要がある。
		授業規律を確立する方策について、共通理解と共通実践を進め、一層充実した授業展開を図る。	チャイム・トゥ・チャイムの徹底を全教員で取り組み、授業規律の確立を目指す。	授業アンケートの結果や保護者アンケートなどの結果。	授業時間を守らない教員がいるとの指摘を生徒から受けることはなく、チャイム・トゥ・チャイムは大方実践されている。	B	授業展開を工夫することにより一層充実した授業展開を図る。
		自主的に学習する習慣が完全に身につけているとはまだ言えない状況が散見されるので、今後も様々な方法で生徒に働き掛けていく。	検定等の合格を目標に、朝学習や週末課題を継続して課すなど、粘り強く指導していく。  手帳やe-ポートフォリオを利用して学習時間や学習成果などを記録させる。	朝学習や週末課題の提出状況と、検定級の取得状況。  自己の学習状況を振り返らせる契機となり、学習状況の改善につながられたか。	朝学習は、各担任の努力もあり、しっかりと取り組んでいる生徒が多い。ただし、検定の合格者数率は多いとは言えない。  担任の働きかけにより、取り組んでいる状況である。	B	朝学習も手帳やe-ポートフォリオも、生徒が目的意識をもって行ってこそ効果があるため、それぞれの教育活動の効果などについて伝達し、理解させる必要がある。
2	進路	大学入試改革に即した進路指導に切り替えるため、分析会を恒常的に行い、生徒の実態把握に努める。	コースごとに模試分析会を実施し、生徒の実態を一人ひとり具体的に把握する。	分析会を実施したか。またそこで得た情報を一人ひとりの生徒に還元したか。	模試分析会を実施して生徒の実態把握に努め、またそこで得た情報を面談等で活用することができた。	A	分析会などで得た情報が、生徒たちのチャレンジにつながるよう進路希望を育てる働きかけを行う。
		第一志望届提出のための情報収集と、第一志望合格を実現させるため、学力向上に向けた努力を一層促していく。	2年生の3学期に第一志望届を提出に向け、進路行事やガイダンスを積極的におこなう。	第一志望届提出にあたり、進路先調べなどがきちんとできたか。またその実現に向け、学習への積極的な取り組みなど、個々の生徒が努力できたか。	第一志望届提出に向け取り組んだが、臨時休業になったことにより、最後まで指導することができなかった。	B	学校再開後、3年生がスムーズにそれぞれの進路実現に向けて取り組めるようまずは本人の希望を早期に確認する。
	講習会などで得た知識をいかにして教科指導や進路指導に還元していく。	大学入試改革に関する講習会などに参加して情報を把握し、各コース各教科で情報を共有する。	講習会への参加状況や、各教科の取り組み状況。授業アンケートによる生徒評価。	大学共通テストに向け、準備をする教員が増えつつあるが、教員間の情報共有の面ではまだ弱い。	B	各大学・専門学校などから出される情報を常にチェックし、対応が後手に回らないよう留意する。	
	生徒や保護者の期待に応えられる体制をつくる。	進学センターを運営していく中で、一層充実させていく方策を順次実践していく。また講座を申し込んだ生徒を満足させられるよう質を向上させていく。	生徒の参加状況が高い水準で維持できたか。また生徒・教員とも納得のいく進路実現ができたか。	進学センターを今年度より本格スタートさせ、受験指導の充実を図ることができた。生徒の参加状況も悪くはなかった。	A	進学センターの講習枠を更に拡大・充実させることで、より生徒一人ひとりのニーズに対応できるようにする。	
3	生徒指導	頭髪や服装については、校外でもきちんとできるよう、引き続き全校での指導を継続する。また貴重品ロッカーを十分に機能させる。	全校一斉の頭髪服装確認を継続する。また一人一人に声をかけ、挨拶を交わしながら、整容指導を徹底するとともに、温かい学校の雰囲気醸成を図る。	校外内において、生徒がきちんとした制服や頭髪で生活できたか。	放課後に生徒指導部を中心に立哨指導を行い、下校時も身だしなみを整えた上で下校させるようにした。	B	頭髪や服装については、校外でもきちんとできるよう、引き続き全校での指導を継続する。
		殆どの生徒がスマホ・ケータイを持つようになった昨今、SNSの使用法・マナーについては、今後とも継続的に指導していく必要がある。	警察や業者などから外部講師を招き、講演会や講習会を実施し、好ましいスマホ・ケータイの使用法の徹底を図るとともに、「生徒指導部便り」も利用し、注意を喚起する。	好ましいスマホ・ケータイの使用法を習得し、生徒が安心して気持ちよい毎日を送ることができたか。	4月に中・高共にスマホ・ケータイの使用法について指導した他、集会やHRでも継続的に指導した。クラスによってはSHRでスマホをロッカーにしまわせるなど工夫した。	B	ほとんどの生徒がスマホ・ケータイを持つようになった昨今、SNSの使用法・マナーについては、恒常的に指導していく必要がある。
		他者の良さを積極的に評価できる生徒を育成すると共に努力を評価したりするなど、褒めることの必要性についての認識をさらに深めていく。	「建学の精神」に基づき、生徒の良い行いについて積極的に評価する。	生徒の善行やよくできている生活態度について取り上げ、評価することができたか。	集会やホームルームなどを通して評価できた。	A	生徒に対し、適切に褒めたり評価したりするための観察する眼を、教師が身につけられるようにする必要がある。
	部活動の活動実績をより高めていくとともに、様々な生徒会活動を通して主体的に他者と協働する活動を通してコミュニケーション力を高めていく。	文化祭や体育祭などの学校行事や生徒会活動、部活動に積極的に取り組ませる。	生徒や保護者へのアンケートや、文化祭などの来場者数、部活動の参加状況。	文化祭の来場者数が過去最多を記録するなど、生徒会を中心に積極的に活動した。また弓道部が初めてインターハイに出場した。	A	活動実績をより高めていくとともに、今後も部活動への積極的な参加状況をより促していく。	

達成度 A：達成（100%）、B：概ね達成（75%）、C：達成途中（50%）、D：取り組みを開始（25%）、E：取り組めず（0%）